

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-1	分類	共通	担当課	経営企画課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化				個別取組	市バス・地下鉄利用のきっかけ作り			
目的	若い世代の方々に市バス・地下鉄を利用していただくきっかけをつくることで、将来にわたる利用促進を図る。								
内容	<ul style="list-style-type: none"> 市バス・地下鉄を利用するきっかけとなるよう無料で1日乗り放題となる「中学3年生卒業おめでとうきっぷ」「1ねんせいはじめてきっぷ」を配布する。 ご利用のきっかけづくりにつながる施策の検討・実施 小学生の親子に地下鉄車両基地や市バス営業所などの施設や車両等を見学等をしてもらう「バス・地下鉄親子探検ツアー」や、普段目にすることのできない車両基地内や車両を間近で見えていただくことができる「バス・ちか祭り」等のPR事業を行う。 								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定									
実績									

【年度計画】

目標と実施方法	<p>【中学3年生卒業おめでとうきっぷ】令和2年度の配布について、仙台市以外の3市を対象を拡大したことから、その効果検証を踏まえ、事業を実施する。</p> <p>【1ねんせいはじめてきっぷ】コロナ禍における実施方法を検討・実施する。</p> <p>【PR事業】新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮した実施方法や、コロナ禍の影響を受けないオンラインやWEBを活用した新規事業を検討・実施する。</p>	数値目標	<p>【中学3年生卒業おめでとうきっぷ】前年度からの利用者増</p> <p>【1ねんせいはじめてきっぷ】同きっぷによるマイカー等からの利用転換者数360人。</p> <p>【PR事業】夏期・秋期、各1回以上実施する。</p>
---------	--	------	--

【年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	<p>【中学3年生卒業おめでとうきっぷ】新たな施設と連携し実施したことで昨年を上回る利用者数となった。</p> <p>【1ねんせいはじめてきっぷ】例年同時に実施しているスタンプラリーは中止としたが、はじめてきっぷ単独で実施した。</p> <p>【PR事業】市バス川内営業所及び地下鉄東西線荒井車両基地の探検ツアー動画を制作し、せんだいTubeで公開した。</p> <p>バス・ちか祭りは新型コロナウイルス感染症の感染状況を考慮し、自由来場制から事前申込制(定員300人)とするバス・ちか探検ツアーを実施した。</p>	数値目標の達成状況	<p>【中学3年生卒業おめでとうきっぷ】利用者数2,331人(前年比+261人)</p> <p>【1ねんせいはじめてきっぷ】利用転換者数600人。</p> <p>【PR事業】夏期・秋期、各1回実施した。</p>
課題と改善策	新型コロナウイルス感染症の影響を考慮して実施内容について検討する必要があるが、感染状況を踏まえ、多くの人に参加してもらえる方法				

【備考】

※動画版「市バス・地下鉄探検ツアー」は、下記リンクよりご確認ください。
[仙台市交通局ウェブサイト\[動画版「市バス・地下鉄探検ツアー」\]](#)

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-2	分類	共通	担当課	経営企画課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化			個別取組	大学・高校等との連携				
目的	大学・高校等と連携し、新たな企画を検討・実施することで、市バス・地下鉄の増客・増収を図る。								
内容	仙台市内の大学や高校等と連携し、オープンキャンパスや新入学生説明会等の機会に「学都仙台フリーパス」(※1)のPR等を行う。								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定	新型コロナウイルス感染症流行下の連携方法の検討・実施								
	オープンキャンパスや新入生説明会等でのPR実施								
実績	デジタルサイネージ掲出によるPR実施								
	大学・高校等の従来の取組みの見直し								

【年度計画】

目標と実施方法	東北大学と行っている定例打合せ等において、コロナ禍によりオンライン説明会等が増えていることを踏まえ、新たな連携方法を検討・実施する。	数値目標	新たな取組みを大学1校と検討及び実施する。
---------	--	------	-----------------------

【年度評価】

評価	○	進捗状況・評価の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・7～8月のオープンキャンパス時期、及び3月の合格発表時期に合わせて、地下鉄仙台駅構内デジタルサイネージで学都仙台フリーパスの利用促進動画を掲出した。 ・東北大学と検討を行ったが、既に大学の自主的な取組みも行われており、新たな取組みの実施には至らなかった。 ・令和3年度学都仙台フリーパス実績の令和2年度比回復率が、他の券種と比べてより高く回復した。 	数値目標の達成状況	新たな取組みを大学1校と検討した。
課題と改善策	オンライン授業の実施状況や、キャンパスの移転等、各学校の動向を踏まえ、効果的な取組みを検討・実施する。				

【備考】

※1「学都仙台フリーパス」については、下記リンクよりご確認ください。
[仙台市交通局ウェブサイト「学都仙台 市バス・地下鉄フリーパス」](#)

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-3	分類	共通	担当課	経営企画課、業務課、営業課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化		個別取組	沿線の地域、イベント、施設等との連携					
目的	市バス・地下鉄沿線の地域、イベント、施設等との連携により、市バス・地下鉄を利用するきっかけを作り、増客及び増収を目指す。								
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・地元情報誌等とのタイアップにより、市バス・地下鉄沿線の観光地やお店等の地域情報やイベント情報の発信を行う。 ・地下鉄施設等での各種イベントの実施について協力する。 								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定									
実績									

【年度計画】

目標と実施方法	新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮しながら、情報発信やイベント等への協力を行う。	数値目標	上期・下期、各1回以上実施する。
---------	--	------	------------------

【年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・地元情報誌S-styleや仙台放送あらかしことのタイアップにより、沿線情報等の発信を行った。 ・仙台クラシックフェスティバルの広報宣伝に協力したほか、バス・ちか探検ツアーの実施にあたり、地域イベントとの連携を図った。 	数値目標の達成状況	地域情報誌での毎月の情報発信のほか、上期1回、下期3回のタイアップを実施した。
課題と改善策	新型コロナウイルス感染症の影響を考慮しながら、効果的な情報発信や、イベント等への積極的な協力を検討していく。				

【備考】

<p>※S-styleタイアップ(「カメラ片手に気ままなバス旅」毎月掲載)バックナンバーは、下記リンクよりご確認ください。 仙台市交通局ウェブサイト「カメラ片手に気ままなバス旅」</p>
--

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-4	分類	共通	担当課	経営企画課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化		個別取組	イメージアップ事業の推進					
目的	人気コンテンツと連携・協力することで、市バス・地下鉄のイメージアップを図り、増客を目指す。								
内容	<ul style="list-style-type: none"> 映画やアニメ等とのタイアップによるスタンプラリー等の各種イベントを実施する。 局施設や車両での映画等の撮影への協力を行う。 								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定	人気コンテンツとのタイアップによる各種イベントの実施、撮影への協力								
実績	1ねんせいをはじめてきっぷを実施								

【年度計画】

目標と実施方法	新型コロナウイルス感染症拡大防止に配慮し、国や市のガイドラインを参考に実施内容等の検討を行う。	数値目標	年1回以上実施する。
---------	---	------	------------

【年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	新型コロナウイルス感染症の影響により、各コンテンツからの連携・協力の協議がなかったが、主催事業としてタイアップを検討・実施した。	数値目標の達成状況	ポケモンセンタートウホクと連携した「1ねんせいをはじめてきっぷ」の実施
課題と改善策	新型コロナウイルス感染症の影響によりタイアップの提案が減少していることから、提案があった際は積極的に活用を検討する。				

【備考】

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-5	分類	共通	担当課	経営企画課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化			個別取組	地元スポーツチーム等との連携				
目的	地下鉄沿線に本拠地を持つプロスポーツチームとの連携により応援ムードを盛り上げることで、試合会場への市バス・地下鉄の利用を促し、増客を目指す。								
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・東北楽天ゴールデンイーグルスのホームゲームへのシャトルバスを運行する。 ・タイアップにより車両や駅施設へのポスター等の掲出を無償で行うほか、スポーツチームの本拠地での市バス・地下鉄の利用を促す広報を行う。 ・局事業にプロスポーツチームマスコットキャラクターを活用する。 								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定									
実績									

【年度計画】

目標と実施方法	イベントへのマスコットの参加やプロスポーツ団体の媒体へのバス・地下鉄の利用促進の広報を依頼する。	数値目標	年1回以上活用する(定期的な取組みは除く)。
---------	--	------	------------------------

【年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・交通局の広報動画へのペガルタ仙台及び仙台89ERSのマスコットキャラクターの出演に加え、SNSで動画の宣伝協力が得られた。 ・各チームの主催試合やポスター等で、市バス・地下鉄の利用の呼びかけを行っていただいた。 	数値目標の達成状況	動画制作で活用。
課題と改善策	新型コロナウイルス感染症の影響により協力の機会が減少しているが、感染状況を踏まえ、イベント実施時等には積極的に協力をを行う。				

【備考】

<p>※動画版「市バス・地下鉄探検ツアー」は、下記リンクよりご確認ください。 仙台市交通局ウェブサイト[動画版「市バス・地下鉄探検ツアー」]</p>

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-6	分類	共通	担当課	財務課、業務課、営業課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化			個別取組	資産の有効活用				
目的	安定的な経営に向け、既存資産を有効活用することで、増収を図る。								
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の有効活用策(駅構内やバス駐車場・営業所への自動販売機やコインロッカー、通信機器等の設置、駐車場用地の有償貸付等)を適切に継続する。 ・駅構内及び高速鉄道用地の未利用箇所について、新たな有効活用を検討、実施する。 								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7	既存の有効活用策(貸付や目的外使用許可等)の継続実施及び地価の動向等を踏まえた貸付料の改定			
予定	→					新たな有効活用策の検討及び実施			
実績	→					既存の有効活用策の継続実施、貸付料の改定			
	→					新たな有効活用策の検討及び実施			

【年度計画】

目標と実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・資産の貸付や目的外使用許可により安定的な収入を確保する。 ・事業資産や遊休資産に係る新たな有効活用策を検討し、順次実施する。 	数値目標	資産の活用による収入額について前年度以上を目指す。
---------	--	------	---------------------------

【年度評価】

評価	○	<p>進捗状況・評価の説明</p> <p>【安定収入の確保】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・駐車場等として貸し付けている用地(木町通・新寺駐車場、旧岡田出張所用地)の収入は前年度を上回った。 ・自動販売機設置場所の有償貸付による収入は、飲料水の売上本数の減およびR3.9月契約更新後のタバコ自動販売機の設置台数減により収入額が減少した。 <p>【新たな有効活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・荒井西用地の公募に関しては、分筆・登記等の事前調整が必要となったことから、公募を行えなかったが、その他は光ファイバーケーブル施設の新規貸付や駅構内のATM新規設置(3駅)等により、前年度以上の収入を得ることができた。 ・未利用の茂庭用地について、水道・ガス等設備の整備可能性の調査を実施 	数値目標の達成状況
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・有効活用を容易に行うことができる資産については既に実施しており、新たな有効活用策の実施のためには、新規事業の開拓や局としての初期投資が必要である。したがって、費用対効果を重視しながら、従来の手法に囚われない柔軟な発想で検討を進める必要がある。 ・荒井西用地については、今後不動産鑑定評価を行った上で公募を実施する。 		

【備考】

--

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-7	分類	共通	担当課	経営企画課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化		個別取組	広告料収入の確保					
目的	広告媒体、料金及び周知広報等の見直しにより、広告料収入の確保に向けた取組みを進め、収益性の改善を目指す。								
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・車両や駅施設等への新規広告媒体の設定や既存広告媒体(※1)の運用等の見直しを行う。 ・交通局自らが広告営業のダイレクトメールを郵送するなど直接営業を行う。 ・全てのバスの広告掲出状況を調査し、契約内容及び届出どおりに掲出されているかの確認を行う。 								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定									
実績									

【年度計画】

目標と実施方法	実際に広告販売を行う取次人と調整のうえ、広告販売の活性化に資する取組み内容を検討・実施する。	数値目標	新規媒体の設定、又は運用等の見直しによる既存媒体の増収を、年2媒体以上で達成する。
---------	--	------	---

【年度評価】

評価	△	進捗状況・評価の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・申込方法や媒体についてまとめた「メディアガイド」を作成し、交通局ウェブサイト公開した。 ・交通局自らの広告営業として、引き続き東北地方の観光関係団体などへのダイレクトメールを送付した。 ・交通局自らの広告営業として、管理者による関係企業へのトップセールスを実施した。 ・掲出が低迷している媒体について販売促進キャンペーンを行った。 ・広告料収入は前年度よりも減収となった。 	数値目標の達成状況	キャンペーンにより年4媒体で増収を達成
課題と改善策	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍による景気の悪化などから広告掲出意欲が低下し、広告料収入が減少しているため、引き続き他都市の事例も参考にキャンペーンなど更なる販売促進策を実施する。 ・交通局自らの広告営業について新たな営業先の検討を行う。 				

【備考】

<p>※1 「既存広告媒体」については、下記リンクよりご確認ください。 仙台市交通局ウェブサイト「広告のご案内」(メディアガイド)</p>
--

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-8	分類	地下鉄	担当課	経営企画課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化		個別取組	地下鉄の運賃水準の検討					
目的	収支採算性の目安とされる東西線開業40年以内の累積欠損金(※1)解消を念頭に、累積赤字を低減する。								
内容	収支状況を注視しつつ、地下鉄の運賃改定の時期や必要性について検討する。								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定	収支状況の分析								
	運賃改定時期や必要性の検討								
実績	収支状況の分析								
	運賃改定時期や必要性の検討								

【年度計画】

目標と実施方法	収支状況を注視し、決算分析を行うとともに、分析結果とそれを踏まえた運賃改定の必要性等を局内に報告する。	数値目標	
---------	---	------	--

【年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	令和2年度の乗車人員及び運賃収入の分析を行い、主に新型コロナウイルス感染症の影響により大幅な減収となったものの、ただちに運賃改定が必要との判断には至っていない。	数値目標の達成状況	
課題と改善策	経営計画策定時の長期収支では、令和7年度までに新型コロナウイルス感染症による乗車人員減少の影響からは回復するものと見込んでいたものの、足元の状況では、回復が鈍いことから、今後令和3年度の決算の状況を踏まえ、経営計画に掲げている取組みに加えて、全国の交通事業者が、民間、公営問わず行っている各種施策を、本市の状況に合わせて選択し、実施の検討を行う必要がある。				

【備考】

※1 「累積欠損金」とは、営業活動により生じた損失で、前年度からの繰越利益剰余金等でも補填することができず、複数年度にわたって累積した損失のことです。東西線開業後40年の令和36年度までの解消を目指しています。

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-9	分類	共通	担当課	財務課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化		個別取組	企業債発行額の精査による利息負担の軽減					
目的	持続可能な財政運営に向けて、企業債利息負担の抑制を図る。								
内容	企業債を財源とする建設改良事業の絞り込みを行うとともに、国庫補助金等の活用できる財源の確保に努め、適切な新規借入れに努める。 また、企業債の借入期間及び償還方法等の精査を行う。								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定	国庫補助金及び一般会計繰入金予算要求								
	予算査定								
	借入方法検討								
実績	国庫補助金及び一般会計繰入金予算要求								
	予算査定								
	借入方法検討								

【年度計画】

目標と実施方法	建設改良事業の予算査定時において丁寧なヒアリング等を行ったうえで、設備更新のスペックを見直すなど事業の必要性を精査し、適切な事業実施に努める。 また、国や一般会計の補助制度等を注視し、活用可能性のある補助スキームがある場合は、積極的な財源確保に努める。 さらに、金利情勢や借入金額等を考慮した上で借入条件を決定する。	数値目標	収支見通し上の令和3年度見込利率(1.5%)以下での企業債借入を行う。
---------	--	------	-------------------------------------

【年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	<ul style="list-style-type: none"> 5月に実施された国交省春ヒアリング及び10月に実施された国交省秋ヒアリングにおいて、今後施工を予定している国補助対象事業の該当箇所やスケジュール等の説明を行った。 ヒアリング等を通して事業の必要性を精査し、適正な事業実施に向けた予算査定を行った。 金利情勢や借入金額等を考慮した上で借入条件を決定した。 	数値目標の達成状況	令和3年度に借り入れた全企業債において数値目標を達成した。 ・自動車建設債 0.097% ・高速建設債(南北, 現年) 0.115% ・高速建設債(東西, 現年) 0.162% ・高速建設債(南北, 繰越) 0.162% ・高速特例債 0.162% ・高速平準化債 0.160% ・高速緩和債 0.120% ・自動車特別減収対策企業債 0.158% ・高速特別減収対策企業債 0.154%
課題と改善策					

【備考】

--

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-10	分類	共通	担当課	業務課、電気課、施設課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化		個別取組	燃料費・光熱水費の節減					
目的	燃料費・光熱水費の節減に取り組むことで、事業運営費の圧縮と環境負荷の低減を図る。								
内容	<ul style="list-style-type: none"> 電力需給契約の相手を競争入札により選定するとともに、LED照明など省エネ設備への切り替えを順次進め電力費の圧縮を図る。 業務運用の改善(バス乗務員へのエコドライブの指導や、職員に対する光熱水費の使用量節減の意識づけの徹底等)の取組みを実施する。 								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定		・東西線電力需給入札	・南北線及び営業所電力需給入札		・東西線電力需給入札				
実績									

【年度計画】

目標と実施方法	<ul style="list-style-type: none"> 各設備更新の際には、適切な省エネ機器導入を進める。 電力需給契約入札参加資格条件について他事業者や本庁等の実績を基に検討する。 営業所等における光熱水費節減の取組み実施を徹底する。 バス乗務員へのエコドライブの指導を行う。 	数値目標	<ul style="list-style-type: none"> 当年度実施予定のLEDへの改修工事2件実施する。 業務運用改善により削減できる光熱水費について、前年度使用量実績を下回る。
---------	--	------	--

【年度評価】

評価	○	進捗状況・評価の説明	<p>【省エネ機器の導入】 霞の目営業所構内照明および実沢営業所管理棟、構内照明のLED化を予定通り実施した。</p> <p>【電力需給入札】 関係省庁との情報交換及び他事業者の入札情報等の収集を行いながら検討している。</p>	数値目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> バス営業所の照明のLED化工事を2件実施した。 バス営業所等の光熱水費について、電気・ガス・水道全ての使用量が前年度実績を下回った。
課題と改善策	<p>【電力需給入札】 東西線の電力需給契約先と令和4年3月21日をもって契約解除となり、すぐにも新たな契約を行わなければならないが、燃料費高騰の影響で、令和3年度末頃から新規の電力需給契約を受け付けている小売事業者がいない状況であり、今後の電力の市場単価を注視するとともに関係省庁とも情報交換しながら対応を検討する。</p>				

【備考】

--

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-11	分類	共通	担当課	財務課、整備課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化		個別取組	投資の選択・集中					
目的	持続可能な事業運営に必要な不可欠な投資を計画的に実施する。								
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・将来の事業規模、乗車人員やサービス水準を見据えて、投資の選択・集中を行う。 ・不要不急な事業の削減、設備更新スペックの見直し、中古バス車両の購入等により投資の抑制を図る。 								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定									
実績									

【年度計画】

目標と実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・予算査定時において丁寧なヒアリング等を行ったうえで、設備更新のスペックを見直すなど事業の必要性を精査し、適切な事業実施に努める。 ・予算査定時において長期建設改良計画の内容確認を行い、必要に応じて事業担当課に修正を指示する。 ・20年以上使用している車両を効率的に減らし、また、年式ごとの車両数の平準化を図り、車両管理の効率化を図るために中古車を活用する。 	数値目標	<ul style="list-style-type: none"> ・建設改良費を収支見通し上の令和3年度計画額(自動車11億円、高速鉄道20億円)以内とする。 ・中古バス車両を6台導入し、必要台数を確保する。
---------	---	------	--

【年度評価】

評価	○	進捗状況・評価の説明	<ul style="list-style-type: none"> ・ヒアリング等を通して事業の必要性を精査し、適正な事業実施に向けた予算査定を行った。 ・予算査定時において長期建設改良計画の内容確認を行い、事業担当課と調整の上で更新を実施した。 ・中古車の購入はできなかった。 	数値目標の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> 両会計の建設改良費について数値目標を達成した。 ・自動車 763,928千円 ・高速 1,795,009千円
課題と改善策	<p>中古車両の購入については、これまで横浜市交通局とは「乗合自動車車両に関する基本協定書」を締結し、優先的に中古車両を譲渡してもらっていたが、横浜市交通局として今後車両の使用期間を延長するとの方針が示されたことから、当局が希望する年式の車両の購入が困難となっている。</p> <p>また、東京都交通局の中古車両についても、東京オリンピックの関係で車両の運用が変更されてきたことや新型コロナウイルス関係などの影響で、現在、中古車として譲渡される車両の年式が、当局の希望する車両ではないことから、購入出来ていない状況である。</p>				

【備考】

--

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-12	分類	バス	担当課	輸送課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化		個別取組	バス運転業務の管理の委託の実施					
目的	道路運送法第35条の規定に基づく「一般旅客自動車運送事業の管理の受委託」を活用することで、民間活力の導入と経営効率化を図る。								
内容	白沢出張所、七北田出張所、東仙台営業所、霞の目営業所について、引き続きバスの運転業務、運行管理業務及び整備管理業務などの業務全般を民間バス事業者へ委託することにより、経費削減・事業の効率化を図る。								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定									
実績									

【年度計画】

目標と実施方法	運転業務、運行管理業務及び整備管理業務などの業務全般の民間バス事業者への委託を継続する。	数値目標	
---------	--	------	--

【年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	任期満了となる評価委員を新たに委嘱した。	数値目標の達成状況	
課題と改善策	委託料に含まれる人件費が年々増加傾向にあることから、抑止策を引き続き検討する必要がある。				

【備考】

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-13	分類	バス	担当課	輸送課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化		個別取組	バス運転業務の管理の委託のあり方検討					
目的	道路運送法第35条の規定に基づき、バス事業者が路線やダイヤ、運賃の決定を行いつつ、バスの運転や運行管理及び整備管理業務を一体で他のバス事業者に委託する「一般旅客自動車運送事業の管理の受委託」の活用方法を見直すことで、更なる民間活力の導入と経営効率化を図る。								
内容	現在の委託規模(事業量の50%以内)を継続しながら、一般旅客自動車運送事業の管理の受委託について検討を行う。								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定	バス運転業務等の管理の委託のあり方検討								
実績	バス運転業務等の管理の委託のあり方検討								

【年度計画】

目標と実施方法	事業者選定にあたり競争性を確保するため、県外事業者への受託意向調査を行う。	数値目標	県外事業者への受託意向調査を2社以上行う。
---------	---------------------------------------	------	-----------------------

【年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	一般乗合旅客自動車運送事業を営む県外事業者3社に対して管理の受委託に係る意向調査を行った結果、全社から「内容次第により検討したい。」との回答を受けたことから、次年度に時期や規模などの条件について、詳細な意向内容の確認を行う。	数値目標の達成状況	県外事業者3社への受託意向調査実施した。
課題と改善策					

【備考】

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-14	分類	地下鉄	担当課	営業課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化		個別取組	駅業務委託の実施					
目的	地下鉄駅務の業務委託を行うことで、民間活力の導入と経営効率化を図る。								
内容	地下鉄駅務の業務委託を引き続き行うとともに、南北線において委託駅の拡大を検討することで、更なる民間活力の導入と経営効率化を図る。								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定			・次期選定手法の検討	・南北線選定	・東西線選定				
実績	委託駅拡大の検討		委託駅拡大の検討を実施						

【年度計画】

目標と実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・現行委託事業者に対して、委託の実施状況の監査を行う。 ・委託駅拡大について、適切に検討を行う。 	数値目標	
---------	---	------	--

【年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	予定通り、現行事業者への監査を実施するとともに、委託駅の更なる拡大についての方向性等の検討を行った。	数値目標の達成状況	
課題と改善策					

【備考】

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-15	分類	バス	担当課	輸送課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化		個別取組	利用状況に応じた運行の効率化(一定エリアの路線廃止)					
目的	路線バスから地域交通への転換を進めることで、運行の効率化を図り、持続可能な経営体制を構築する。								
内容	仙台市都市整備局が令和3年に策定する「地域公共交通計画」に基づき、路線バスから地域交通への転換を進める。また、既存市バス路線と地域交通の乗継ぎ等調整を行う。								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定									
実績									

【年度計画】

目標と実施方法	<p>地域交通転換エリアが決定していないため、R3は年度計画なし。</p> <p>※令和3年10月から市内7か所で行われる地域にあった交通を考える意見交換会に参加予定</p>
---------	---

【年度評価】

年度評価	-	進捗状況・評価の説明	<p>第1回目の地域にあった交通を考える意見交換会で各地域より出た意見に対しての回答を求められたため、第2回目の意見交換会に参画をした。意見に対して回答をし、市バスの現状を説明した。</p>	数値目標の達成状況	
課題と改善策					

【備考】

<p>※地域交通転換エリアが決定していないため、R3は年度計画なし。</p>
--

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-16	分類	バス	担当課	輸送課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化		個別取組	利用状況に応じた運行の効率化(便数調整)					
目的	バス事業の効率性・採算性を改善するため、便数調整等を行うことにより運行の効率性向上を図る。								
内容	路線バスの系統・区間の利用状況を詳細に分析し、ダイヤ改正において需要に応じた便数調整等を行う。								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定									
実績									

【年度計画】

目標と実施方法	運行の効率性向上を目指して需要に応じた便数調整等を行う。	数値目標	
---------	------------------------------	------	--

【年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	計画通りに進んでいる。 バス事業の効率性・採算性を改善するため、現行ダイヤの利用状況の詳細な分析を行い、次回ダイヤ改正時に運行効率化を図るもの。	数値目標の達成状況	
課題と改善策					

【備考】

--

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-17	分類	バス	担当課	経営企画課、業務課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化			個別取組	市バスの運賃改定				
目的	運賃改定を行うことで、資金不足比率(※1)を経営健全化団体(※2)判断基準の20%未満に抑制し、市バス事業を安定的に運営する。								
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・計画期間中に運賃改定を実施する。 ・改定時期と改定幅は、各種取組みによる収支状況や新型コロナウイルス感染症の影響等を踏まえて検討を行い、決定する。 								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定	収支状況分析、改定時期・改定幅検討 ・運賃改定事務作業シミュレーションの実施			運賃改定作業					
実績	収支状況分析、改定時期・改定幅検討 運賃改定事務作業シミュレーションの実施								

【年度計画】

目標と実施方法	<ul style="list-style-type: none"> ・運賃改定に係る事務作業のシミュレーションを実施する。 ・決算状況の分析を行い、改定時期・改定幅の検討を行う。 	数値目標	
---------	--	------	--

【年度評価】

評価	◎	進捗状況・評価の説明	【運賃改定作業シミュレーションについて】 先行する他事業者に調査を行うとともに、必要な作業の確認を行った。 また、上限運賃改定(※3)のほかに、収支改善につながる施策を調査・検討した。 【決算分析について】 予定通り実施し、今後の取組みについて検討を行った。	数値目標の達成状況	
課題と改善策	経営計画策定時の長期収支では、令和7年度までに新型コロナウイルス感染症による乗車人員減少の影響からは回復するものと見込んでいたものの、足元の状況では、回復が鈍いことから、今後令和3年度の決算の状況を踏まえ、経営計画に掲げている取組みに加えて、全国の交通事業者が、民間、公営問わず行っている各種施策を、本市の状況に合わせて選択し、実施の検討を行う必要がある。				

【備考】

※1「資金不足比率」とは、営業収益に対する財政健全化法上の資金不足額の比率であり、経営状況の悪化の度合いを示す指標です。 ※2 財政健全化法上の資金不足比率が20%になると、「経営健全化団体」とされ、国より厳しい経営改善に向けた取組みが求められます。 ※3 本市のバス運賃は「対キロ区間制」により、1kmあたり38.1円(消費税5%込、最低運賃は160円)という上限の範囲内で交通事業管理者が定めています。この上限を「上限運賃」といい、国の認可を受けて決定されます。事業者は認可された上限額の範囲内で運賃を設定できます。	
--	--

仙台市交通事業経営計画個別管理・評価シート

【取組み概要】

番号	4-1-18	分類	共通	担当課	財務課	戦略	持続可能な経営の確保	年度	R3
取組	経営基盤の強化、経営の健全化		個別取組	経営改善によるバスの一般会計補助金の抑制					
目的	経営の自立性及び持続可能性を高める。								
内容	一般会計補助金の繰入額の抑制に取り組む。								
年次計画	R3	R4	R5	R6	R7				
予定	一般会計補助金予算要求								
実績	一般会計補助金予算要求								

【年度計画】

目標と実施方法	一般会計に対して適切な金額での補助金予算要求を行う。 上記要求にあたっては、補助の妥当性及び必要性や積算方法の精査を行ったうえで金額を算出する。	数値目標	一般会計補助金の繰入額を収支見通し上の令和3年度計画額(30億円)以内に抑制する。
---------	---	------	---

【年度評価】

評価	△	進捗状況・評価の説明	・令和3年度一般会計補助金は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を踏まえた新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金等を財源とした仙台市路線バス運行継続奨励金380,500千円の交付に伴い、総額3,329,368千円となった。	数値目標の達成状況	令和3年度決算は仙台市路線バス運行継続奨励金380,500千円の交付に伴い、数値目標を達成できなかった。 ・令和3年度一般会計補助金 3,329,368千円
課題と改善策	・新型コロナウイルスの影響により減少した乗車料収入を補うため、令和2年度、3年度の累計で特別減収対策企業債16.5億円を発行した。今後その償還も発生するなど、厳しい経営状況の中において、引き続き、計画に基づいた経営改善の取組みを進めながら、数値目標である一般会計補助金の抑制に努める。				

【備考】

--